

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
 テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	“京北フォト・ロゲイニング (photo rogaining)” – 集落エリアにおける新たな居住のデザイン Vol.3: 統合的学びの場として集落をゆるく体験する仕掛けの実装 – “KEIHOKU Photo Rogaining” for designing contemporary residents in Rural Areas Vol.3: the place-finding game as gently integrated learning of village lives
実施責任者 Instructors	工学研究科建築学専攻 教授 神吉紀世子 デザイン学ユニット 特定准教授 十河卓司
実施協力者 Collaborators	フィールド協力者 ・ NPO 法人京北コミュニティビジネス ・ 京北森林組合 ・ 京都市（京北）林業研究会 ・ 京都府立ゼミナールハウス ・ 京北自治振興会 International Discussant ・ 飯田恭子 europäischen LEADER Region Regionalforum Fulda-Südwest リージョナルマネージャー（在ドイツ, Dr.-Ing.） （2013・2014 年度京北 FBL 参加本科生に適宜可能な範囲で協力いただきます）
テーマの背景 Background	2013 年度以来の京北地区（京都市右京区、旧京北町）を対象とした FBL/PBL の 3 年目、歴代参加者の提言にもとづき、今年度は実際に現地でのイベントを企画・実施する。集落エリアにおける居住の持続性（縮小傾向に対して少しずつでも積極性をもって定住する世帯を獲得する）をサポートする仕掛けとして、京北が子どもの育ちの場として優れた環境をもつことを伝えることの周知を図る方法の一つとして、親子で参加する応用版「ロゲイニング」を企画・開催する。 →これまでの様子は次を参照下さい http://fbl2013keihoku.wiki.fc2.com/ ----- （毎年度共通の背景）サステナブルな居住域の形成と持続のためには、非都市エリア、すなわち、集落エリアが衰退せず持続することが必須である。都市縮小が生じている地域、メガシティ化の抑制が必要な地域のどちらにおいても、集落エリアの積極的な持続が必要であるが、集落エリアは一般に第一次産業の低迷や人口減少・高齢化等の傾向にあり、当面の将来像の描出も容易ではない状況がある。同時に、都市化を免れた結果、重要な自然環境・歴史的環境も残されておりその保全のためにも地域の持続が望まれ、必ずしも既存のスタイルに閉じない、新たな居住や生業のあり方が切実に求められている。集落エリアのこうした状況は、国内外を問わず存在する。なお、ここではいわゆる「地域活性化」は目標としておらず、少数が着実に「地域定住」することを目標と掲げている。

<p>実習の概要 Overview</p>	<p>京都市北部山間部を対象地とし、とくに京北地区（217.68km²）を主たるフィールドとする。今年度 vol.3 では京北カスタマイズ版の「フォト・ロゲイニング」のプログラムの具体化（のための実地調査・地理情報等の整理・関係先交渉・準備など）と2月末～3月の間での1泊2日での実施運営を行う。Vol.1、2での実績を通じ、宿泊場所（茅葺民家1棟貸しゲストハウス）や現地協力者の候補は概ね顕在化している。10月開始直後に開催日程（1泊2日）を即決定し、広報を開始しつつ、上記の調査・企画立案に着手する。そのため今年度は京北で滞在しつつ調査作業を行うことが必須となる。フォト・ロゲイニングはオリエンテーリングに類似する、地図を参考に一定時間内に野外の所定の場所を回って課題写真を撮りポイント獲得を競うゲームであるが（参考：https://ja.wikipedia.org/wiki/ロゲイニング、http://photorogaining.com）、これを応用し、京北諸集落エリアの環境の親子での体験的再発見に誘う企画に具体化する。</p> <p>これまで、vol.1 では地域づくりに携わる地元主体と来住者へのヒアリング、vol.2 では、京都から小浜に至る街道文化圏の中の京北の位置づけを再検討しつつ来住者を確実に得ていく方策を検討した。これらの結果から、京都市市街地に居住している若い親子世帯にその環境を知る機会を提供することが必須ではないかとなり、親子で参加するフォト・ロゲイニングのカスタマイズ版イベントの定期開催が構想された。その後 vol.1、2 参加者有志が引き続き、京北での実施可能性と先駆的に行われている「フォト・ロゲイニング」の調査等を手掛けてきた。その結果、農林業の繁忙期をはずし、風景としては魅力的だがロゲイニングとしては工夫の必要な冬期開催を試みることとなり、現在に至る。親子の参加条件も協力者を通じて諸準備を始めている。</p>
<p>実施計画、実施場所 Schedule, location</p>	<p>打ち合わせは主として KRP で行う。現地調査、および、ロゲイニング実施は、京北地区内である。</p>
<p>履修条件 Conditions for participation</p>	<p>京北地区での調査は土曜日・休日開催となる。複数回の休日を費やすことになることを前提としている。またイベント開催は2月末～3月のいずれかの日程となる。</p>
<p>募集人数 / Number of participants</p>	<p>2～4名程度</p>
<p>1次募集締切 Application deadline</p>	<p>10月7日（水）</p>
<p>応募資格 Intended participants</p>	<p>応募多数の場合には、デザイン学履修者を優先する。</p>
<p>応募方法 How to apply</p>	<p>デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ（下記）から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/activities/fbl_pbl/</p>
<p>参加者の決定 Decision of participants</p>	<p>10月13日（火）までにメールで参加の可否を通知。 ※1次募集で参加不可となった者を主な対象として2次募集を行う（10月14日～16日）。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。（原則として先着順）</p>

問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	Landscape Survey (現地踏査：民家調査、集落調査、自然地調査, 史料：旧版地理情報の解読等, 社会調査：各種インタビュー調査, 生活史・生業史インタビュー他), グループワーク (プログラム企画立案) 等
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	現地踏査は現地実習形式。参考文献・史料の扱い方、インタビュー調査の手法は事前講義で解説する。Web 上で参考情報を共有する。
成果の公開方法 Publication of the results	終了後または逐次 Web 上で公開
成績評価方法 Evaluation	出席 4 割 活動状況 3 割 (最終レポート含む) 実施運営 3 割
特記事項 Special remarks	

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
2	10 月	京大 KRP (含・Skype Lecture)	17 日以降出来るだけ早く開催 (メールで調整します)。オリエンテーション、これまでの vol.1、2 の成果概説、 <u>日程の決定、進め方決定</u>
5	11 月	京北	プログラムのための現地調査、プログラム具体化作業①
5	12 月	京北	プログラムのための現地調査、プログラム具体化作業②
3	1 月	京大/京北 (含・Skype Lecture)	プログラム具体化作業・準備、諸手配
★	2~3 月	京北	京北冬のフォト・ロゲイニング開催・運営